

令和元年9月定例教育委員会会議録

1. 日 時 令和元年9月19日(木) 午後2時30分～午後4時15分
2. 場 所 職員会館2階 大会議室
3. 出席者
教育長 樋口 利彦 教育長職務代理者 野口 和江 委 員 谷口 馨
委 員 河野 さおり 委 員 植原 和彦
4. 事務局出席者
教育総務部長 藤浪 秀樹/学校教育部長 谷 桂輔/生涯学習部長 藤原 淳
総務課長 高井 哲也/学校給食課長 井出 英明/学校管理課長 山本 千尋
産業高校学務課長 小林 大樹/学校教育課長 倉垣 裕行/人権教育課長 寺内 ユカ
生涯学習課長 寺本 隆二/スポーツ振興課長 津田 伸一/郷土文化課長 西川 正宏
図書館長 溝端 多賀子/総務課参事 松本 秀規/総務課参事 井上 慎二

開会 午後2時30分

前回会議録について承認された。本会議録署名者に谷口委員を指名した。
傍聴人0名。

○樋口教育長

ただいまから、9月定例教育委員会会議を開催します。

報告に入る前に、非公開の決定ですが、本日の案件のうち、議案第59号は人事案件ですので、非公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(教育委員 賛同)

非公開への賛同がございましたので、そのように取り扱います。

報告第60号 産業高校市民公開講座「パソコン講座・エクセル関数ステップアップ講座」の実施について

○樋口教育長

報告第60号について、説明をお願いします。

○小林産業高校学務課長

報告第60号につきましては、産業高校市民公開講座「パソコン講座・エクセル関数ステップアップ講座」の実施についてです。

産業高校が開催する市民公開講座のひとつになりまして、マイクロソフトエクセルの講義で、概要については記載のとおりです。

内容につきましては、全商情報処理検定試験 3 級レベルの講義を予定しています。具体的には、表の作成、関数の利用、グラフの作成などになります。

別紙にこれまでの受講状況につきまして年齢構成等も含め記載しています。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

毎年内容はほぼ同じですか。

○小林産業高校学務課長

同じです。

○樋口教育長

昨年度受講者が少し減ったのは偶然ですか。

○小林産業高校学務課長

少し減少しました。皆さん基本的なことはご存知になってきていると考え 2 年程前に関数などの講義内容を少しレベルアップしましたが、内容についてはアンケートなどを取り、精査していきたいと考えています。

○河野委員

以前に受講された方が、内容がレベルアップしたために再度受講を希望することはありますか。

○小林産業高校学務課長

詳しくは把握していませんが、複数回受講された方はいます。

○河野委員

40 歳代の受講者が多いようですが、何か理由はあるのでしょうか。

○小林産業高校学務課長

理由は把握していません。全体的に受講者が減ってきていますが、いつも受講者数が多い年代の方の申し込みが少なかったため、平成 30 年度は受講者が減少しました。

○河野委員

受付期間はまだですね。たくさん受講者が来てくれると良いですね。

○野口教育長職務代理者

実際に検定を受けられる方はいますか。

○小林産業高校学務課長

別途受験してもらう必要がありますので、口頭ではありますが、検定試験の案内はしています。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 61 号 令和元年度 岸和田市中学校総合体育大会について

○樋口教育長

報告第 61 号について、説明をお願いします。

○倉垣学校教育課長

報告第 61 号につきましては、令和元年度岸和田市中学校総合体育大会についてです。

今年度は7月25日（木）から8月22日（金）の間、特に今年度から始業式が早まりましたので、8月の最終週の一週前の金曜日までの期間で実施されています。場所につきましては、概要に記載のとおり、各体育館やグラウンド、中学校です。

成績詳細につきましては、添付資料のとおりです。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口教育長職務代理者

中学校の部活動の中で、男女それぞれ一番人数が多い種目は何か分かりますか。

○倉垣学校教育課長

手元に資料はありませんので、確認しておきます。

○野口教育長職務代理者

ハンドボールの女子は1位が久米田中であとが無いということは、他の中学校には無いということですね。

○倉垣学校教育課長

クラブ自体が無いということです。男子につきましても3校にしかありません。

○河野委員

全体的に競技人口自体が減ってきているのでしょうか。

○倉垣学校教育課長

中学生が年々数百人単位で減ってきていますので、場合によっては廃部になることもあります。

○野口教育長職務代理者

皆さん暑い中、よく頑張ったんだと思います。ありがとうございました。

○倉垣学校教育課長

非常に暑い中でしたが、先生方も配慮した上で運営され特段熱中症もありませんでした。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 62 号 令和元年度 全国学力・学習状況調査及び岸和田市学力調査の結果について

○樋口教育長

報告第 62 号について、説明をお願いします。

○倉垣学校教育課長

報告第 62 号につきましては、令和元年度全国学力・学習状況調査及び岸和田市学力調査の結

果についてです。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果につきまして、市民に対して説明責任を果たすとともに、本年度の結果を踏まえて改善についてのポイントを明確にし、学力向上を推進してまいります。また、今年度より小学校3、4、5年生、中学校1、2年生を対象として新たに取り組みを始めました、岸和田市学力調査についても、同様に結果の分析を行い、課題を明らかにしたうえで授業改善に活かしてまいります。

「岸和田の子どもたちに確かな学力を！」という資料を作成しております。例年、定例教育委員会会議報告の後、ウェブサイトにも掲載しまして、本市の学力の状況等についてお知らせしております。

資料の2ページ『各学年・各教科の平均正答率について』をご覧ください。全国学力・学習状況調査につきましては、今年度、従来あったA・B問題の区分が今年度実施分から無くなり、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語ということでの実施となりました。内容については、従来のA問題である基礎的基本的な知識を中心に問う問題とB問題であるそれらを活用する力を問う問題、それぞれが混ざって出題されております。

まず小学校ですが、国語、算数のそれぞれ平均正答率及びその全国比を書いています。国語の平均正答率においてはABの区分が無くなったことを考慮しても、全国との差が拡大しております。また、算数につきましては、昨年度A区分の割合とほぼ同程度の数値ということで、活用の問題が入っていることを考慮すると、若干ですが改善の傾向が見られます。

次に中学校ですが、国語については小学校と同様、ABの区分を考慮しても、全国との差が拡大しております。数学に関しましては、昨年度B区分とほぼ同等の数値ということで全国との差は若干拡大したと考えられます。

いずれにしましても、全国と比べると非常に差があり、課題があるということは変わっていません。

続いて、全国学力・学習状況調査の『正答率40%以下の児童生徒の割合について』、です。市の正答率でみますと、市全体の平均ということになりますので、データ上いろいろな要素も入ってきます、特に今年度については、学力下位層、学力に課題のある子どもたちについてもしっかり支援、指導していかなければならないということで、正答率40%以下の子どもの割合について調べています。全国の値を1とした時の岸和田市の割合を経年で示しております。小学校については、国語算数ともに下位層の割合が増加している傾向が見られます。40%以下の割合が全国に比べて1.5倍を超え1.82倍。一方、中学校では、国語において1.84倍となっており、全国の値との差が大きくなっております。数学については、概ね例年と同様の1.5倍前後です。

国語における課題が大きく、小学校、中学校においても同様の傾向が見られます。

3ページからは、全国学力・学習状況調査における各教科の結果の概要を示しています。各教科における指導領域別の正答率、特に課題のあった問題、改善に向けたヒントをそれぞれ掲載しております。また、下の欄にQRコードを掲載し、問題や回答をご覧いただけるようにしました。なお今年度初めて中学校の英語が実施されました。

続いて、9ページ目からは、小学校3、4、5年生と中学校1、2年生を対象に本年度から実施しました独自の岸和田市学力調査についての概要でございます。従来小学校6年生と中学校3年生における全国学力調査のみでしたが、やはり同じ子どもの集団の経年変化を見たいという課題を捉え、それに応じた指導をしてその成果をみていく、より成果を掴んでいくことが目的です。

10ページ目におきましては、各学年各教科の正答率の全国に対する割合を示しております。小学校においては4年生に課題が見られます。中学校を見ますと2年生は健闘していますが、1年生に課題が見られます。

また、11ページ目からは小中学校別に全国学力学習状況調査と同様に各教科の状況について記載しております。英語につきましては、中学校1年生は年度当初ということもあり、2年生のみ受験となっています。

14ページ目からは全国学力・学習状況調査における生徒質問紙から抜粋して調査結果を記載しております。今年度は、例年と事項を変えまして、授業づくりや学習習慣に係る質問に絞ってその状況を記載しています。いくつか特徴的なものを取り上げますと、質問の一つ目、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」というのですが、特に中学校において肯定的回答が全国に比べて少なくなっており、また小学校中学校とも肯定的な回答が昨年度を若干下回るという課題の残る結果となっています。学習活動における課題設定等にもう一段工夫を要するものにとらえています。

また、質問の4つ目「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」という項目ですが、小中学校とも肯定的回答が約8%、全国を下回っています。学んだ知識を様々な場面で活用するというを通じて子どもたちが力を身につけ、より確かな力に変えていくことが目指すところでありますので、教科横断的な学習や活用する場面を意識した指導を行う必要があると考えています。

次に、17ページ目『今後の改善策について』です。

『(1)「ことばの力」を確実につける授業づくりの推進』について、子どもたちが問題を解くあるいは考える、表現する、すべてのベースになる「ことばの力」が重要であるということで、子どもたちに「ことばの力」を高められるような授業づくりを進めていく必要があるということで、引き続き「ことばの力」に関する記述を行っております。この「ことばの力」を高めるといふ視点で、全教員がこれまでの授業を振り返り、確実に子どもが「ことばの力」を身につけるような授業を展開できるというところを目指して進めていきたいと考えています。

『(2) 主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業改善の推進につきましては、新しい学習指導要領にて示されています主体的・対話的で深い学びの実現に向け、各指導主事や指導員が各校に赴き、指導助言や支援を行うことで授業改善を推進して参ります。

『(3) 教職員の授業改善に向けた研修（パッケージ研修）の実施』では、授業改善に特化した研修を実施します。特に指導案検討の段階から指導主事等が学校に関わり、継続して数回のシリーズで研修を行うことで、より授業研究を効果的に推進できるものと考えています。今年度から市内の一部の小学校で実施していますが、次年度以降も継続して実施します。

『(4) 授業改善推進支援事業の実施』については、中学校を主に対象として実施していますが、大学教員等の専門家を年間通じて定期的に対象の学校に派遣し、授業改善に係る指導助言や研修を実施するというものです。こちらも予定ですが、令和3年度までに全中学校を網羅して実施する計画です。

『(5) 岸和田市学力調査の実施』につきましては、先ほどご説明したところですが、子どもたちの学力の状況と課題をよりの確に把握し、それに応じた学習指導の充実に資するというところで今年度より実施しています。次年度以降も実施の方向で検討を進めています。

『(6) 岸和田市放課後学習支援事業「まなびサポート」の実施』今年度より新たな取組みとしてスタートしています。小学校の放課後の学習機会を提供して、特に基礎的基本的な知識に課題のある子どもたちを対象として、市内全小学校で放課後年間35時間、各学校により実施の時期や形態は若干異なっていますが実施しています。3、4、5年生の市内児童500人を対象にしています。これも次年度以降も実施の方向で考えております。

(7)～(10)については、従前から行っているものです。今後も取り組みをさらに進めてまいります。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

市の学力調査について、調査結果については児童生徒一人一人の結果を個人票として、それぞれアドバイスが示されるものが返されるとなっておりますが、全国学力・学習状況調査の結果の返却はどのようにされているのですか。

○倉垣学校教育課長

市の学力調査は民間の業者に委託をしており、個人の課題などをより分かりやすいような形にして一枚もののシートで示されています。全国の方は市のものほど詳しく分析はされていません。

○樋口教育長

個票自体は返されるのならば、国と市で比較されますので、記載しておいた方が良いのではないのでしょうか。

○倉垣学校教育課長

わかりました。

○植原委員

この資料はどこで配布するのですか。

○倉垣学校教育課長

岸和田市のウェブサイトに掲載します。

○樋口教育長

掲載するのはいつ頃になりますか。

○倉垣学校教育課長

10月上旬の予定です。

○植原委員

今後の改善策についてですが、市の学力調査を見ていくと、課題改善のところで国語算数に関して教育課程の連携を強く言っていますが、小学校の国語であれば中学校の教育課程を見ながら頭に入れて小学校の教育課程を組んでいけば向上するだろうという考え方でしょう、中学校であれば小学校との流れの中での改善策を言っていますが、改善策の中に小中の教育課程の流れが載っていないことが一点。改善策として入れている点で、課題で挙げているのですから皆さんが見た場合にそう思うのではないのでしょうか。

二点目は『(2)「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進』は学習指導要領の言葉で、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの三つの学びを指導助言していくということですが、学校教育課として頭の中で具体的にはとても難しいことだと思います。例えば総則で学校図書館を使って主体的な学びを、対話的な学びは、子どもが教師と対話する、子ども同士が対話する、そして子どもが地域の人と対話する、その中で学力を上げていくというような問題でしょう、その中から深い学びで自ら課題を見つけて解決する力を養っていく。そういうふうにつまえていった時に具体的な策として指導助言を学校教育課が具体的に行っていくのですか。もし何か一つでも二つでもあるのであれば教えてください。

○倉垣学校教育課長

基本的には指導主事は研究授業や校内研究に指導助言として呼ばれることが非常に多いです。初任者や2年目の者の研究授業の全てに呼んでいただいて、指導員の方と指導助言を行う、そういった折に従来の授業作りというのが、悪い点で言うと教え込み、一方的なインプット中心の授業になる傾向がありますから、そういった部分からいかに脱却して子どもたちの考える機会を確保するか、考える課題設定を行うか、子どもたち自身のお互いの考えを伝え合う授業の場の設定をどうするか、そういった場をどう作るか、設定ができているかの指導助言は常にその場その場で行っていく、各校の校内研究に指導助言に行き、その折にも一貫してそういった場の設定を中心に指導しています。

○植原委員

この三つの学びというのは、教育課程の連携も含めてですが、学習指導要領における学力を上げていく一番の焦点だと思っています。その中で初めてこの三つの学びを取り組むために学校図書館をどう活用するかということが初めて新学習指導要領の中の総則の留意事項に導入されています。そのあたりもきっちりある程度やっていくべきだと思います。今までの学習指導要領になく、図書館に関しては明確に位置づけられたので、『(8)読書活動の推進』だけに載っていますが、授業や全ての面でその活用について一言でも入っていれば指導しやすく、学びにつながっていくのではないのでしょうか。

○倉垣学校教育課長

従前から全国学力・学習状況調査を続けてきた中で、岸和田市の課題として「書くこと」が一つ課題と言われてきましたし実際そうでした。ただ今回市の学力調査で国語をみていくと、これだけでは分かりにくいですが、相対的に小学生の場合は読むことに課題がでています。というこ

とは読むことに課題があるので、結局最終的に活用の力を問われるような問題を読み切れないというところにも課題として表れています。読書活動であったり、図書を活用した活動がポイントになるのではと考えておりますので、指摘いただいたとおり中身を検討したいと思います。

○谷口委員

特に今年度は岸和田市の学力調査があるので、非常に具体的に分析もよくされていると思います。折角分析していただいて、子ども個人の課題もそうですが、教える先生方の指導の改善に大きく役立てていただきたいと思います。専門職の人間にとって最もつらいのは比較されることだと思います。しかし最も力がつくのは、その比較されることによって、自分の欠点や長所を知ることだと思いますので、各学校の各教科の先生それぞれのクラスも当然のことながら、平均的なところも全て出るはずですので、そういう意味でいけば、いわゆる岸和田市内では、あなたの担任しているクラスはこのレベルで問題があるよということが必ず出るはずですので、そのところも含めて、先生の授業の具体的に、岸和田市全体がどうかということも当然重要ですが、その教える先生のためにも、課題があるのではないかとということを教えてあげて、先生が自分で自分を見つめなおす機会を作るように活用していただければ非常に良いと思います。

改善策を見させていただいて、後半のところはいつもあるようにということですが、6番目のところまでは新たに考えて具体的で良いと思います。さらに具体的な成果を出すためには、そういう形に活用していただければ有難いなと思います。

○河野委員

全国学力調査と市の学力調査との全国比での正答率の差が気になります。市の学力調査では小学校3、4、5年生と中学校1、2年生の正答率が9割を超えているのに、小学校6年生と中学校3年生になった途端になぜこれほど下がるのでしょうか。全国の学力調査の方が問題が難しいのでしょうか。それとも本当に小学校6年生と中学校3年生の学力が低いのでしょうか。

○倉垣学校教育課長

全国学力調査の方が難しいのですけれど、問題の性質と言いますか、方向性が若干違うところはあります。どちらかというとな国学力・学習状況調査は特に今年度A B問題が一緒になったということで、全体的に国語の問題文も長くなり、データや資料を見ながら回答するようになっていきます。市の学力調査については、そういう問題もあり、全国と比べると割と普段から接しているような問題も若干あるというような問題構成になっていますので、そういったことも反映されているのではないかと思います。当然子どもの集団も違いますので、次年度以降も実施することができましたら、同じ子どもの集団での経年での変化を見ながら指導成果を見ていきたいと考えています。

○河野委員

これから今回の結果をデータとして活用してもらえたらと思います。

○野口教育長職務代理者

今回問題等をQRコードで見せていただいたので、子どもの結果について考えてみようと思っ
てくださる保護者の方には非常に親切で分かりやすい報告になっているのではないかと思います。

す。本当に多くの保護者がこれを活用していただけたらいいなと思いながら見ていました。

結果的には例年以上に課題が出てきているというのが実態だと思います。各学校にしっかり取り組んでいただいて、市の方で実施した学力調査を受けた子どもたちが次の全国学力・学習状況調査を受ける年齢になった時に、どこまで伸ばせているかということが、本当に問われてきますので、真剣に学校も教育委員会も取り組んでいかないと、絶対後には引けない状況であると思われました。その中でこの全国のテストの結果をなんとか上げるために、必死で3月頃から過去問をさせてとすれば一定の成果はあるかもしれませんが、やはりそれは邪道だと思います。しかし、この全国の問題を保護者にも見ていただきたいし、今回小学校3年生からテストも始まり先生の意識も少し変わったかなと思うのですが、先生方にもこの問題をしっかり見ていただいて、この程度のことにきちっと答えられる子どもを育てていかないといけないという意識をしっかりと持っていただきたいと思います。

そのために今後の改善策についてというところで、一番に「ことばの力」ということを挙げていただいています。現場にいた経験から言葉で自分の考えを表現したり、伝えたり、書いて伝えたり、あるいは口語で伝えたりということが、岸和田の子どもたちは極めて苦手であると思います。読むことにも課題はありますが、読んで自分の考えをまとめてそれをきちっと相手に伝えるように文章化する力というものに課題があると思いながら教職生活が終わってしまったのですが、そこが問われていますので、先生方に課題点をしっかりと認識していただいて日々の授業の中で、それを行っていかないと、こういった力はつかないと思います。そこを例えば今回小学校3年生以上で実施しましたので、どの学校でも全国の調査での問題を先生方皆で見直してみ、これくらいのことに答えていける子どもにしていくにはどのように、日々の生活の中でも言葉は使っていますが、「ことばの力」というと何か特別なものがあるのではなく、日々の生活と学習の中で鍛えていくものだと思います。それをどうしていくかを真剣に取り組んでいただきたい。大変だと思いますがよろしくお願いします。

○樋口教育長

私の方から気づいたことを何点かお伝えします。2枚目全国の正答率の一番下の表記の「AとBの2区分に分かれて」という言葉がありますが、市民の方には分かりづらいと思いますので、基礎・基本の習得を問う問題や活用する力を問う問題という言葉を入れて、それが一体化したという言葉を加えていただけたらと思います。次の頁は小学校と中学校の全国を「1」ということを示していますが、例えば全国と書いて「1」の横に線を引くとか、他の表記は「1」の手前にありますので、1を基準と見るのですが、この表を見れば何のグラフかが分かりづらい。「1」が全国の標準的な値であるということが分かるように表記を工夫していただけたらと思います。次に小学校と中学校の分析がある中で中学校の数学の分析が、他の教科と比べ極端に少ないので、もう少し記述があった方がバランスが取れていると思います。

市の学力調査については、分かりやすく分析していただいて、言葉も柔らかいのでとてもよかったです。分析の授業づくり・学習習慣が色別に書いている中の下に分析した言葉「肯定的回答が、小学校で7.2%、中学校で…」がありますが、この数字は「当てはまる」と「どち

らかといえば、当てはまる」を合計し、国と比べているのですね。肯定的回答は市民の方が見られた時に7.2%というのは何を指しているかが分かりにくいのではないのでしょうか。次に今後の改善策が(1)から順番にあるなかで、例えば(2)(3)(4)(7)は全て授業改善に関係している内容ですので、(2)(7)は小中学校を対象にしている、(3)は小学校だけ、(4)は中学校だけと分けるのであれば、横に括弧して小学校、中学校と書いた方が同じような内容ですので分かりやすいのではないのでしょうか。次に(11)に植原委員からの意見としてありましたことに関して、学力向上の実践交流会、校区別の合同会議の実施について、付け足すこととなりますが、小中合同で全国学力調査の課題点や、いろいろなことを協議して教育課程に反映しているという部分を入れてはどうでしょうか。

最後に繰り返しドリル学習を学習支援システム、ICTを使い授業でも、家庭でもできるシステムの活用などを入れてはどうでしょうか。

すごく分析するのは大変だったと思いますが、皆さんの今言っていたご意見なども参考にさせていただいて改善したうえで公開してください。

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

なお、学力調査の学校別平均正答率は、以前から、過度の競争や序列化の影響により、地域に対する偏見を助長するような疑念がありますので、岸和田市では公表していないということをご理解ください。

報告第63号 令和元年度 市立公民館・地区公民館・青少年会館まつりについて

○樋口教育長

報告第63号について、説明をお願いします。

○寺本生涯学習課長

報告第63号につきましては、令和元年度 市立公民館・地区公民館・青少年会館まつりについてです。

この事業は、日頃の学習活動の成果の発表・展示の場、自主的な企画・運営の場、団体相互及び地域との運営・交流の場、また、来場者に生涯学習のきっかけを提供する場として、そしてあわせて、公民館利用の一層の活性化を図ることを目的として、各公民館及び青少年会館で開催する事業です。開催日などは、別紙のとおりです。

なお、市立公民館・中央地区公民館の「公民館まつり」は、11月9日(土)・10日(日)に開催します。また、「山直地区公民館まつり」については、すでに5月25日(土)・26日(日)に開催しました。

○樋口教育長

説明が終わりました。

それぞれ地域の実行委員会の方々が委員長さん中心に準備を進められていると聞いています。たくさんの方にご参加いただき楽しんでいただけたらと思います。

本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。ないようですので、報告とし

て承りました。

報告第 64 号 令和元年度 市民プールの利用状況等について

報告第 65 号 令和元年度 初心者水泳教室の実施状況等について

○樋口教育長

報告第 64 号について、説明をお願いします。

○津田スポーツ振興課長

報告第 64 号と第 65 号はどちらもプールに関連するものですので、続けて説明させていただきます。まず報告第 64 号につきましては、令和元年度 市民プールの利用状況等についてです。

12ある市民プールですが、昨年度は監視員不足により、4つのプールを一般開放しませんでした。しかし、各方面からの要望を受けまして、例年より前倒しで監視員の募集をすることや、アルバイト賃金を上げることで、監視員確保に努めました。

結果、一定数のアルバイト監視員は集まりましたが、大きな伸びには至っていません。一般開放は昨年8プールの8プールから9プールへ1カ所増やしました、また太田、今木、朝陽の3つのプールについては8月18日まで1週間延長しました。一般開放の利用者数は、資料の7ページに記載のとおり、合計7,951人となっております。

近年では、酷暑の影響で、プールを中止する自治体も見受けられる状況です。今年度から本市につきましても、「暑さ指数」を採用し、指数が31℃以上と予報された時にはプールを閉めるという方針で対応しましたが、結果的に、暑さ指数により休場したプールはございませんでした。

次に報告第 65 号につきましては、令和元年度 初心者水泳教室の実施状況等についてです。7月22日から30日までの前期を浜、八木北、山直北プールで、8月1日から9日までの後期を、朝陽、太田、桜台プールで実施しました。

昨年度は634名の参加がありましたが、今年度は470名とかなり減少する結果となりました。

泳力テストは、完泳率で見ますと、今年は21.8%と昨年の15.4%を上回った結果となっております。

○樋口教育長

説明が終わりました。これも暑い中いろいろな取組みをしていただいておりますが、本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

先日泉南地区の教育委員会の会合があり、その時に各市町の市民プールあるいは学校のプールの在り方について話を伺う機会がありました。そこで感じたのですが、近年台風が来る時期がだんだんと早くなり夏休みに入る前に来ることもあり、従来でも梅雨との兼ね合いで、学校水泳が3～4回しかないところ全て中止になったということは何回も聞いていました。それについて子どもたちも残念であるし、元々学校水泳が始まったきっかけが、修学旅行で船が沈み、泳げなかった子どもたちが多く亡くなったという反省からと聞いています。やはりどこかで水泳をするということが重要なことで、今は習いに行っただけでもできる子どもがいる反面、プールに

行ったことがない、水遊びしかできない子どもがいることを考えて、学校水泳で習うということは非常に大切なことだと思います。今の報告の中で長期的には市民プールの在り方、学校水泳の在り方について、学校の適正配置を考えているのと同じように長期的な考え方を教育委員会としても検討していかないといけないと思います。

市民プール自体も二か月程度しか稼働していない。しかし施設維持費が非常にかかる。今泉佐野市がふるさと納税の資金で各学校に全てプールを作ると言っていますが、教育委員は、作るのには良いが今後維持していきけるのか心配していました。岬町は学校にプールは無いのですが、町内に温水プールがあり、そこで各学校が7、8月に関わらず計画通りに授業ができるということでした。和泉市はサン燦プールといって、産業廃棄物処理場の余熱利用施設ですが、通年で利用でき、今ミズノが管理しているようですが、その活用も検討しているとのことでした。

今回も利用者数 38,822 人のうち、学校関係で利用しているのが 33,000 人程度ということは実質的には市民プールを利用しているのは学校が主体となっているということになりますし、温水プールがあれば授業も計画的にできるし、こんなにたくさんのプールがある市は少ないと思いますが、今後の維持管理費を考えると、一つか二つの温水プールを検討しても良いのではないかと感じました。市の規模が違いますし、なかなかすぐにはできないと思いますが、長期的な目でみると開設が五十数日間だけの施設を一年間管理しないといけないというのは、あまり効率的ではないと感じましたので、そういったことも検討していただけたらと思います。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 66 号 岸和田城天守閣の展示について

○樋口教育長

報告第 66 号について、説明をお願いします。

○西川郷土文化課長

報告第 66 号につきましては、岸和田城天守閣の展示についてです。

概要ですが、次期企画展開催を延期します。7月に報告しました「近代の夜明けとキリスト教—岸和田と同志社」の展示を令和元年9月6日(金)～令和2年1月19日(日)の開催を予定していましたがこの開催を延期させていただきます。

延期に至る経緯ですが、5月に報告しましたように、岸和田城天守閣収蔵庫内で、カビが発生しました。展示室には影響がありませんでしたので、次期企画展につきましては開催を予定しておりましたが、令和元年第3回市議会定例会におきまして、8月27日(火)文教民生常任委員会で、9月2日(月)本会議で、除菌の補正予算案に対して、収蔵庫内の除菌作業完了後の開催要望が付されました。

今後の予定ですが、現在の企画展の会期を再延長させていただきます。現在開催していますのは「四季を彩る絵画展」という企画展です。当初、平成30年12月19日(水)～令和元年5月19日(日)で終了する予定でしたが、このカビ問題がありましたので9月1日(日)まで延長

させていただいていましたが、これを再延長しまして、次期企画展が開催できるまでの間延長させていただくということになります。

次期企画展の開催を延期させていただき、収蔵庫内の除菌作業を行います。この作業が完了した後、次期企画展を開催するという流れを予定しています。

次期企画展を延期するにあたり、周知方法としまして市HPに掲載、ポスターを配布しました関係団体につきましては、開催を延期する旨のシールを貼り付けていただくようお願いしています。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 67 号 第 32 回濱田青陵賞授賞式及び記念シンポジウムの開催について

○樋口教育長

報告第 67 号について、説明をお願いします。

○西川郷土文化課長

報告第 67 号につきましては、第 32 回濱田青陵賞授賞式及び記念シンポジウムの開催についてです。日時につきましては、令和元年 9 月 22 日（日）の午後 1 時から、岸和田市立文化会館（マドカホール）で予定しています。内容は、授賞者につきましては、7 月の定例教育委員会で報告しました、米田穰さんです。東京大学総合研究博物館の教授です。記念講演としまして、「食から考える縄文・弥生・古墳の生活と社会」というテーマで講演をお願いしています。

その後、記念シンポジウムとしまして、「おいしい縄文 ー先史時代の栄養学と食文化ー」をテーマにパネリストの方として関係する分野を研究されている方々にお集まりいただき意見交換をしていただきます。

参加方法につきましては資料のとおりです。既に 9 月 2 日から募集していきまして、昨日までの時点で 250 名を超える申し込みがされています。

○樋口教育長

説明が終わりました。毎年行われている授賞式、記念シンポジウムですが、本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○河野委員

素晴らしい賞ですが、毎年授賞式の日が小学校の運動会と重なっており行けませんでした。今年は 1 週間ずれているため、今回は参加したいと思います。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第 68 号 「関西文化の日」への参加について

○樋口教育長

報告第 68 号について、説明をお願いします。

○西川郷土文化課長

報告第 68 号につきましては、「関西文化の日」への参加についてです。

きしわだ自然資料館が、一昨年、昨年も参加いたしました企画です。内容は、関西広域連合が中心に運営する「関西文化.com」という、関西の芸術文化情報を発信するサイトが企画するイベントです。関西広域連合構成府県に連携団体を加え「関西2府8県」と表現しておりますが、このエリア内の美術館・博物館・資料館などの文化施設を無料開放するという企画です。

今年度も、参加施設募集のご案内をいただいたので、きしわだ自然資料館としては、3回目の参加をさせていただくことにしました。昨年までと違いますのは、例年、11月中旬の日程を設定されていたのですが、それに加えて、今年度は、9月中にも一日、無料開放日を設定するというご提案がありましたので、それにも参加させていただくものです。

なぜ9月中の一日なのかと言いますと、9月1日から7日の間に京都で国際博物館会議京都大会が開催されたり、ラグビーワールドカップ2019が9月20日から11月2日の間で開催されるなど、9月開催のイベントがたくさんありますので、それに同調して、イベント機運を高めるという目的だそうです。

自然資料館での実施日は、令和元年9月22日（日）と、例年通りの11月中旬の11月16日（土）・17日（日）を予定しています。

趣旨としましては、関西が誇る長い歴史に培われた豊かな文化資源に気軽に接する機会を提供することにより、美術・学術愛好者の増大を図るとともに、圏域外に向けても、文化が息づく関西を広く、かつ強くアピールし、集客を図る、とされています。

周知方法は、広報きしわだ9月号は間に合いませんでしたが、11月号、市ホームページはもちろん、主催の関西文化.comホームページ、関西文化の日パンフレットなどです。

今年度も、参加を決めた理由としては、一昨年、昨年と、実際に、一定の効果があつたと感じた点があります。別紙資料をご覧ください。参加前の2016年度と、参加した2017・2018年度を比較したものです。入場者数全体で比較しましたところ、参加前の2016年の該当する11月中旬の土日は161人入場していただきましたが、2016年と比較しますと2017年はプラス148人、2018年はプラス182人と実際、入場者数は伸びています。また関西文化の日で無料扱いとなった入場者数は、自然資料館は中学生以下は無料となっていますので、ここは実際にお金を支払っていただくはずであった大人の方と考えてください。同じように見ますと2017年がプラス116人、2018年がプラス144人と伸びています。昨年関西文化の日を実施するにあたりまして、気になるころでありましたので、お客様にアンケートを自然資料館独自で実施しました。来ていただいた方が関西文化の日を知って来ていただいたのかをお伺いしましたが、ご回答いただいたのが11月17日は60組、11月18日は61組です。知っていたかを確認したところ合計で78組、64.5%の方がこの日は無料であると知って訪ねてくださっているということになりますので、一定の効果があつたと考えていま

す。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

3年目の参加ですが、9月22日だけプラスするということですね。

○谷口委員

折角来られたのですから、有料にはなりますが、お城やだんじり会館にも行ってもらえるようなアピールはできないでしょうか。

○西川郷土文化課長

職員もPRに努めるようにします。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告第69号 郷土資料企画展示と講演会の開催について

○樋口教育長

報告第69号について、説明をお願いします。

○溝端図書館長

報告第69号につきましては、郷土資料企画展示と講演会の開催についてです。

企画展及び講演会のタイトルは「相馬九方 ～岸和田ゆかりの友人とその門人たち著作展」で、展示の会期は令和元年10月1日（火）～令和2年1月31日（金）までで、岸和田市立図書館本館の郷土資料の展示コーナーに展示します。

開催の趣旨ですが、今年度の郷土資料企画展示は、幕末に岸和田藩の藩儒として藩政にも功績のあった、相馬九方の教育者としての一面に焦点を絞り、図書館所蔵資料のほか個人宅、関西大学所蔵の資料を借り受けまして、本館2階のガラス展示コーナーにおいて手紙、書籍、書画を展示するとともに、展示に関連する講演会を開催し、本市の歴史や文化に関心を持っていただく機会とするものです。

おもな展示資料につきましては、報告に記載のとおりです。その他にも府立中之島図書館の資料等もお借りして、前期と後期で一部展示資料の入れ替えを予定しております。

また、講演会につきましては令和元年11月10日（日）午後2時半～4時半、市立図書館3階自習室におきまして定員50名での開催を予定しております。講師には、図書館資料の整理もお願いしています、地域資料研究家の下村欣司氏をお迎えし、申し込みは9月10日（火）から図書館本館で電話での受付となっております。今の時点でおよそ10名にお申込みいただいています。

周知方法としましては、広報きしわだ9月号、市のホームページ、ポスター、ちらし等で周知しています。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○谷口委員

資料を読みまして、吉田松陰も岸和田に来ていたことに驚いています。是非参加したいと思います。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、報告として承りました。

報告は以上ですが、他に何かありませんか。ないようですので、議案の審議に移ります。

議案第 58 号 補正予算について（事業費補正）

○樋口教育長

議案第 58 号について、説明をお願いします。

○溝端図書館長

議案第 58 号につきましては、補正予算について（事業費補正）です。令和元年 8 月 27 日に、高石市羽衣の山本清治様から図書購入に充当のためということで、昨年に引き続き 50 万円ご寄付をいただきましたので、令和元年第 4 回定例市議会に歳入・歳出補正予算をご審議いただくものです。

山本様からは、平成 23 年度から毎年寄附をいただいております、寄附総額は累計で 450 万円になり、昨年度末までに累計 2,730 冊程度の図書を購入させていただいております。

○樋口教育長

説明が終わりました。本件について、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

○野口教育長職務代理者

山本様からは、このような本を購入してくださいというようなご希望はありますか。

○溝端図書館長

毎年ご希望があります。今年は新聞の切り抜きをお持ちいただきまして、学習漫画のシリーズになったもの、古くから出ているようですが、25～26 冊がセットになったものを是非とも一揃えは置いてほしい、子どもたちは文字で読むよりも漫画で読むほうが、親しみやすいだろうということです。もう一つはプログラミングが小学校で必修になるということで、参考になるような子どもたち向けの本を購入し、将来的にその子どもたちが、プログラミングを好きになって職業に結びついていく、そのようなことに役立ててほしいという要望がありました。

あともう一つ、もし可能であれば以前ご要望のあった医療関係の図書も、5 年程度経つので新しいものと入れ替えていただきたいとのことでしたので、出来る限りそのようにしていきたいと考えています。

○樋口教育長

ほかにいかがでしょうか。ないようですので、原案のとおり承認することとします。

議案第 59 号 教職員人事について

○樋口教育長

次に、非公開の案件の審議に入ります。関係者以外は退席願います。

(教職員人事について審議され、承認された。)

○樋口教育長

以上で、本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後 4 時 15 分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

教育長

署名委員